

DAN 総合設計 海外研修旅行



2006 PARIS

スケジュール表 ※都合により変更になる可能性があります

日付	時間	場所	行 動	備 考	
10/16 (月)	7:07	大船駅発	成田エクスプレス	朝食・両替は各自任せます。	
	7:13	戸塚駅発			
	7:26	横浜駅発			
	9:04	成田空港着			
	9:25		第1ターミナル 南ウィングKカウンター20番 集合		
	11:25	成田空港発	出発 NH205 全日空にてパリへ(直行便)		
	16:40	パリ	パリ着(日本との時差 -7時間) アシスタントと合流。専用バスにてホテルへ ホテル周辺の店にて軽食	各テーブルでの精算をお願いします	
10/17 (火)	8:50	ロビー集合	出発徒歩→14番ピリオテック・フランソワ・ミットラン駅→ピラミッド駅降車。 徒歩にてピラミッド広場まで移動 ピラミッド広場(シティラマ社)集合 パリ市内半日観光 ※車窓・日本語テーブルにてガイド。 ルーブル美術館/コンシェルジュリー/ノートルダム大聖堂/ソルボンヌ大学/パンテオン/サン・ジェルマン・デ・プレ/オルセー美術館/シャンゼリゼ大通り/凱旋門/エッフェル塔/アンヴァリッド(廃兵院)/コンコルド広場/マドレーヌ寺院/オペラ座 ツアー解散後メトロにて移動 Pyramides→Chatelet 乗り換え→Rambuteau降車 ボンビドーセンターにて解散(全館共通€10。美術館のみ€7) ファブリカ展開催中 <b>午後 自由視察</b> シャイヨー宮/ケ・ブランリー美術館/エッフェル塔/凱旋門€7/サントシャベル€5.5/パッサージュ/オペラ€6	朝食 ホテル(6:30~)	
	9:00				
	9:45	ピラミッド広場集合		以降OPツアー参加の方はこの場所にて集合となります(21日のツアーは除く)	
	10:00				
	11:30 午後			昼食 各自 ※翌日の朝食が出発時間に間に合わないため、各自で手配お願いします	
	18:50	オペラガルニエ前集合	正面O部(階段)へ集合→ 徒歩にてレストランへ LES NOCES DE JEANETTEにて食事。 メニュー:魚のテリヌ/ビーフ・ブルグニオン/ケーキ	夕食は全員でします。	
	19:00				



日付	時間	場所	行 動	備 考
10/18 (水)	6:10 7:00 7:15   22:00	ロビー集合 ピラミッド 広場集合	出発 ピラミッド広場（シティラマ社）集合 モン・サン・ミッシェル1日観光 13名  9:00 ピラミッド広場（シティラマ社）集合 9:15 ヴェルサイユ宮殿半日観光 3名 PM サクレクール寺院・蚤の市	朝食 ホテル ※出発時間に 間に合わない ため、各自前 日での手配を お願いします  昼食 ツアー
10/19 (木)	8:30  12:00  19:50	ロビー集合  ノートルダム	出発 徒歩にてプラネクス邸／救世軍(f r e e) ／ZAC 集合住宅／国立図書館／アメリカン センター／オムニススポーツセンター／大蔵 省新庁舎／アラブ世界研究所(€3※企画に よる)／ノートルダム寺院(f r e e・塔へは €6.1) 解散 午後 自由視察 A DOMUS（インテリア商業施設）コース RER E 号線にて Rosny-Sous-Bois（ロ ニスボア）へ移動 B 美術館コース オルセー美術館／ラッヅェリ-美術館／ガ ラスの家／サンシュルピス教会	朝食 ホテル  とにかく歩き ます。動きや すい服装でお 願います  昼食 各自
		ロビー集合	19:50 ホテルロビーに集合。 ホテル隣のレストラン「LE PATIO」にて食 事。	夕食は全員で します

日付	時間	場所	行 動	備 考
10/20 (金)	8:30	ロビー集合	出発 出発徒歩→ポルト・ティブリー駅→パレ・ロワイヤル・ミュゼ・ルーヴル駅降車。 ルーブル美術館入館 (ルーブル入館料 8.5ユーロ) <b>自由解散</b> A パリ市内建築コース セーヌ河散策／カルティエ財団／パリ天文台／ヴィヴィアン通アパート／ユネスコ本部  B ヴェルサイユ半日観光コース 3名 14:15 ピラミッド広場(シテラマ社)集合 14:30 出発	朝食 ホテル   昼食 各自   夕食 各自
	22:00	ホテル集合	ホテル集合	
10/21 (土)			<b>自由視察</b> A サヴォア邸コース サヴォア邸 (RERにてポワッシー駅) / ラ・デファンス地区／新凱旋門€7.5  B オプショナルツアー：モネ・ジヴェルニー+ヴェルサイユ1日観光 8:30 ロビー集合～18:00 ロビー解散 (9.5h)	朝食 ホテル   昼食 各自
	19:30	アルマ橋バトー・ムッシュ看板前集合	サヨナラパーティー 最寄駅：9号線アルマ・マルソー駅 (Alma Marceau) から徒歩 ※ドレスコード有り。ネクタイ・上着必須。 ジーンズ・スポーツシューズ不可。 ブルーアイテム着用 この看板前(バトー・ムッシュ)に集合↓	セーヌ河 ディナークルーズ
	20:30	出港		
	22:45	帰港		





## スイス学生会館



モンスリー公園の南の国際大学都市。広大な敷地内には、世界中の国によって出資建築され、変化に富んだ建築様式の学生会館が 36 あり、主に留学生や研究生の寮として使用されている。スイス学生会館は 6 本の巨大なピロティや L・コルの壁面が見事なサロンなどが特徴。学生部屋に設置された家具は、L・コルとシャルロット・ペリアンによるもの。

LE CORBUSIER (1930)

## ブラジル学生会館



14 区の国際大学都市内にあり、スイス学生会館のすぐ近くに位置する。L・コルのブラジル人弟子ルシオ・コスタも共同建築家としてかなり重要な役割を担っている。

LE CORBUSIER (1953)

## 救世軍本部



多彩色の外壁やエントランスに注目。1 階ホール・2 階階段踊り場及び地下の多目的ホールが見学可能。この収容所は、現在 170 人余りが職業訓練をしながら建築当事とあまり変わらない状態の共同寝室にいらしているとのこと。

LE CORBUSIER (1929)

## ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸



閑静な住宅街にあるふたつの邸宅は、コルビュジエ財団として彼をめぐる旅の拠点になっている。突き当たりの建物は絵画コレクターで独身者だった銀行家、ラウル・ラ・ロッシュ氏の邸宅で、一般公開されている。右側に隣接するのは、コルビュジエの兄、音楽家だったアルベール・ジャンヌレの家で、ラ・ロッシュ邸と比較するとベーシックな間取りで事務所と資料室になっている。ロッシュ邸階段上からの眺めが最高。

LE CORBUSIER (1923)

## プラネクス邸



画家だったプラネクスの住居兼アトリエとして建てられ、現在も彼の子供、そして孫夫婦が大切に住み続ける2世帯住宅。家の裏側には階段でつながる共用テラスがあり、1階にはふたつの建築事務所が賃貸で入っている。孫娘のエレーヌ・プラネクス氏自身も建築家で、内壁の色やキッチンや収納など、建築当時からそのまま残されている部分も多い。

LE CORBUSIER (1924)

## モリトールのアパート



黒い窓枠にガラスブロックがはめ込まれたファサードが目印。14のアパートが入っており、コルビュジエは最上階の7階と招待客用の寝室もある屋上庭園の8階を自分のアトリエ兼住居として妻イヴォンヌと共に晩年まで暮らした。間取りに変化をつけるドア、曲線が美しいシャワールームなどがある。

LE CORBUSIER (1929)

## ルーブル美術館



30 万点以上の所蔵品、展示約 2 万 6000 点を誇る世界最大級の美術館。大改造計画により新設されたガラス張りのピラミッドがメインの入口。

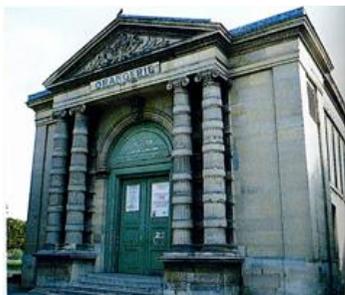
展示棟はドノン、シュリー、リシュリー翼の 3 棟からなる。「ミロのヴィーナス」「サモトラケのニケ」「モナ・リザ」などの有名作品はドノン、シュリー翼にある。

## オルセー美術館



セーヌ河左岸に佇む荘厳な建物はオルシャン鉄道の終着駅として 1900 年に建設され、美術館としては 1986 年からスタートした。ルーブル所蔵作品以降 1848～1914 年までを印象派の作品を中心に展示。モネ、ルノワール、ゴッホ、セザンヌ等。

## オランジュリー美術館



チュイルリー公園の南西部に建つ美術館。宮廷の温室だった建物を利用。印象派～エコール・ド・パリまで近代絵画の秀作が集まる。印象派の巨匠モネの連作「睡蓮」を展示していることで名高い。

## オペラ・ガルニエ



ナポレオン 3 世の命によりパリ改造計画の一環として 1875 年に建設された。バロックや古典など様々な様式を取り入れた壮麗、豪華絢爛な造りに圧倒される。観覧席の天井に描かれたシャガールの「夢の花束」でも有名。

シャルル・ガルニエ（1875）

## ノートル・ダム寺院



初期ゴシックの傑作である。とりわけ西正面とセーヌ河から望む外観の全容は、気品があって美しい。西正面は、これ以降の作品に比べて起伏を抑えた簡明な表現となっている。扉口の上の「王のギャルリー」と双塔基部を取り巻く透かし彫りのアーチ列の水平層が、控え壁による垂直の分割を統括し、壁面に見事な均衡と調和を与えている。

（1163-1250 頃）

## エッフェル塔



フランス革命 100 周年を記念して建設された自立鉄塔。

高さ 300m は当時の世界最高だった。塔に名前を残すギュスターブ・エッフェルはフランスを代表する鉄骨構造の技術者。1980 年代に軽量化やエレベーターの交換などの改修を行っている。

G u s t a v e E i f f e l (1889)

## シャイヨ宮



1937年のパリ万博で展示施設として建設されたパビリオンのひとつで、現在は博物館等が含まれる。セーヌ河を望む丘に翼を広げたように円弧を描いて建ち、中央部が広いテラスで開放されている。トロカデロ広場からエッフェル塔、更には陸軍学校への軸線と視覚的効果を狙ったもので、エッフェル塔が最も美しく眺望できる場所。

Palais de Chaillot (1937)

## エトワールの凱旋門



ラ・マドレーヌと並びフランス盛期新古典主義様式を代表するモニュメント。古代ローマ皇帝の慣例にのっとり、ナポレオンの戦勝を記念して計画されたもの。オーダーを使わずロマン派の彫刻で装飾されたファサードは、高さ50m、幅45m、奥行き22m。巨大さと相まって見るものを圧倒する。門の上から放射状に延びるパリが俯瞰できる。

Jean-Francois Chalgrin

## ポンピドゥー・センター



ポンピドゥー大統領の提唱で計画された現代美術センター。設計協議で選ばれたレンゾ・ピアノとリチャード・ロジャースの案は工場や工事現場の仮設物を思わせ、ポストモダン建築の嚆矢として世界に衝撃を与えた。1997～2000年にはピアノらの設計で大規模な改修工事を受けた。5・6階には国立近代美術館がある。

RENZO PIANO e t RICHARD ROGERS  
(1971)

## ユネスコ本部



国際的に活躍する芸術家たちが協同してつくり上げた建築。事務棟・会議場そして半地下に埋め込まれた十字形プランの別棟からなる。湾曲した壁面で構成される Y 字形の事務棟はフォントネ広場を囲い込むことを念頭に考案された。会議棟はアコーディオンのような形態の折板構造が採用され、建設当時、最先端の技術と形態をアピールした。

MARCEL BREUER、PIERRE NERVI、  
BERNARDZEHRFUSS（1958）

## ヴィヴィアン通りのアパート



階段状に各階ごとに後退させた都市労働者向け集合住宅。オスマンの都市改造以後、法律で規制されていた街並みの連続性を守りながらも、より個性的で整備された住環境を目指そうとしたソヴァージュの思想を実現。歴史的モチーフを一切用いずに、セラミック・タイルの軽快な壁面で表現された近代性は次世代の建築に影響を及ぼした。

HENRI SAUVAGE、CHARLES SARAZIN

## ガラスの家



南北のほぼ全面がガラス・ブロックの壁で覆われていることから、この通称が付けられた個人住宅。既存建物の1階部分を取り壊して上の2階分を改築したもので、プレファブ工法と部品のユニット化を駆使して、鉄とガラスの合理性を追求した建築。大きなガラスの壁から入る光を一杯に浴びた室内に設けられた階段や家具のデザインも必見。

PIERRE CHAREAU、BERNARD BIJVOET  
（1932）

## カルティエ財団



カルティエ財団の文化事業を管轄する本部の建物で、下階は展覧会などに開放し、上階は財団の事務所が含まれる。外観はシャトーブリアンが植えた貴重な遺産であるレバノン杉を中央に保存し、ガラスのスクリーンが本体のガラスの箱を覆い隠す構成。自然遺産の保存とハイテク建築を融合させた建築として、パリの新名所となっている。

JEAN NOUVEL、EMMANUEL CATANI、ANDASSOCIATES（1994）

## サント・シャペル



ルイ9世が巨費を投じて手に入れた聖遺物「キリストの荊冠」を保管するために建てた礼拝堂。小規模ながら堂全体を包み込むステンドグラスのスクリーンは圧巻。高さ15.5m、総面積600㎡の窓を分割する支柱は極めて細く、全体が鳥籠のような構造と化している。ステンドグラスはフランス革命で被害を受け、その後修復または復元。

PIERRE de MONTREUIL（1242-48）

## アラブ世界研究所



ジャン・ヌーヴェルの出世作。電動の絞りを備えたアルミの外壁は、採光調節機能とアラバスク模様を同時に実現しており、設備デザインの新たな可能性を招いたといわれる。地上10階地下3階のビルをセーヌ河沿いの街並みに溶け込ませる量感のまとめ方も秀逸。内部は西側とアラブの文化交流を担う研究・展示施設である。

JEAN NOUVEL+ARCHITECTURE STUDIO（1987）

## 大蔵省新庁舎



「グラン・プロジェクト」の一環として建設された大蔵省の建築。設計協議で 137 点の応募案から選ばれたものだが、セーヌ河に向けて大胆に張り出した巨大な外観は人々に威圧感を与え、官僚主義の象徴として批判された。しかし、隣接するスポーツ・センターやリヨン駅・ベルシー地区再開発との関係を統合した都市的視点は評価されている。

PAUL CHEMETOV e t BORJA HU  
IDOBRO (1988)

## アメリカン・センター



アメリカ文化の普及を目的とする文化施設で、劇場、映画館、多目的ホール等が含まれている。構造や形態の不安定、不調和、歪みなどを意図的に表現する脱構築主義の作品として知られる。クリーム色のライム石の外壁が、断片化された形態を寄せ集めたような自由さがあり、不可思議な造形美を生み出している。

FRANK O GEHRY (1994)

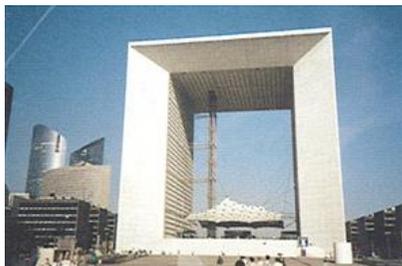
## フランス国立図書館



「グラン・プロジェクト」の一環として建設された国立図書館。全世界から応募のあった設計協議案 244 点から選ばれたもので、本を直角に開いて立てたような L 字形のタワーが、地下に埋没した緑豊かな中庭を四方から囲む配置が評判となった。中庭の眺めと自然採光に最適な閲覧室を低層部に配し、書庫と事務室を上階に上げる計画も画期的。

JEAN NOUVEL、EMMANUEL CATANI、  
ANDASSOCIATES (1994)

## グラン・アルシュ



「グラン・プロジェクト」計画で整備されたパリの新都心ラ・デファンスの中心施設。ルーヴル宮からシャンゼリゼ大通り、エトワール凱旋門と続く軸線の延長上に位置する門の形をしたオフィスビル。105×105mという立面の寸法はルーヴル宮の方形中庭から採られた。完成前の1989年には最上階で先進国首脳会談が開かれた。

OTTO VAN SPRECKELEN、PAUL ANDREU (1990)

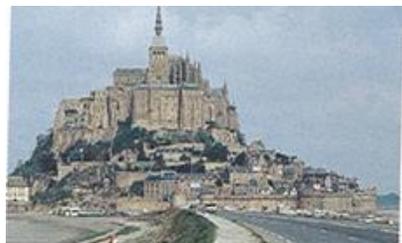
## サヴォア邸



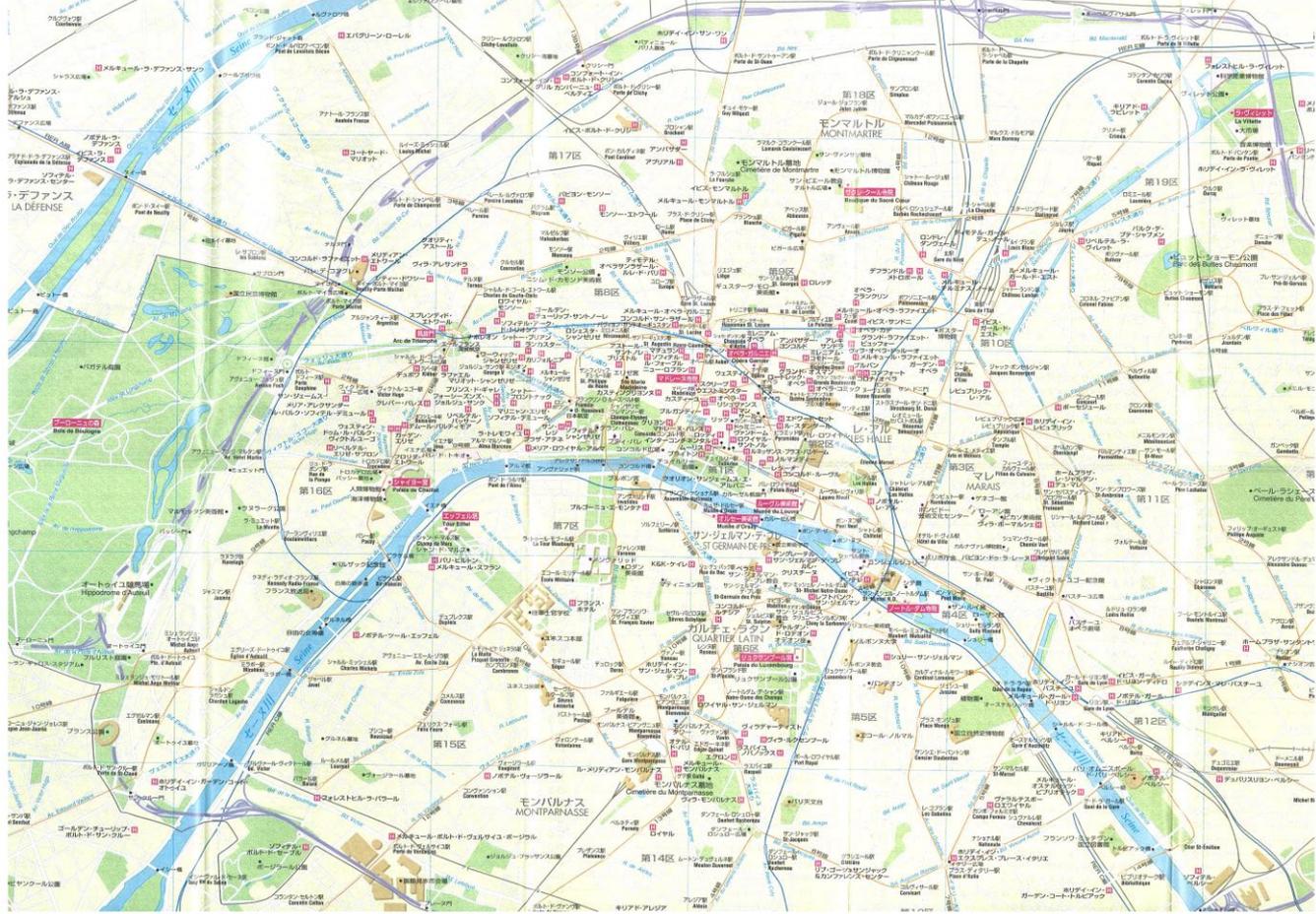
20世紀を代表する住宅建築。「近代建築の5原則」の最も洗練された完成形。ピロティに支えられ浮かぶような幾何学的な四角い箱の中には、テラスや屋上庭園、そして螺旋階段やスロープが演出するダイナミックな空間が隠されている。壁面彩色や横長窓、トッライトからの光が明るく清潔で合理的な住空間を作っている。

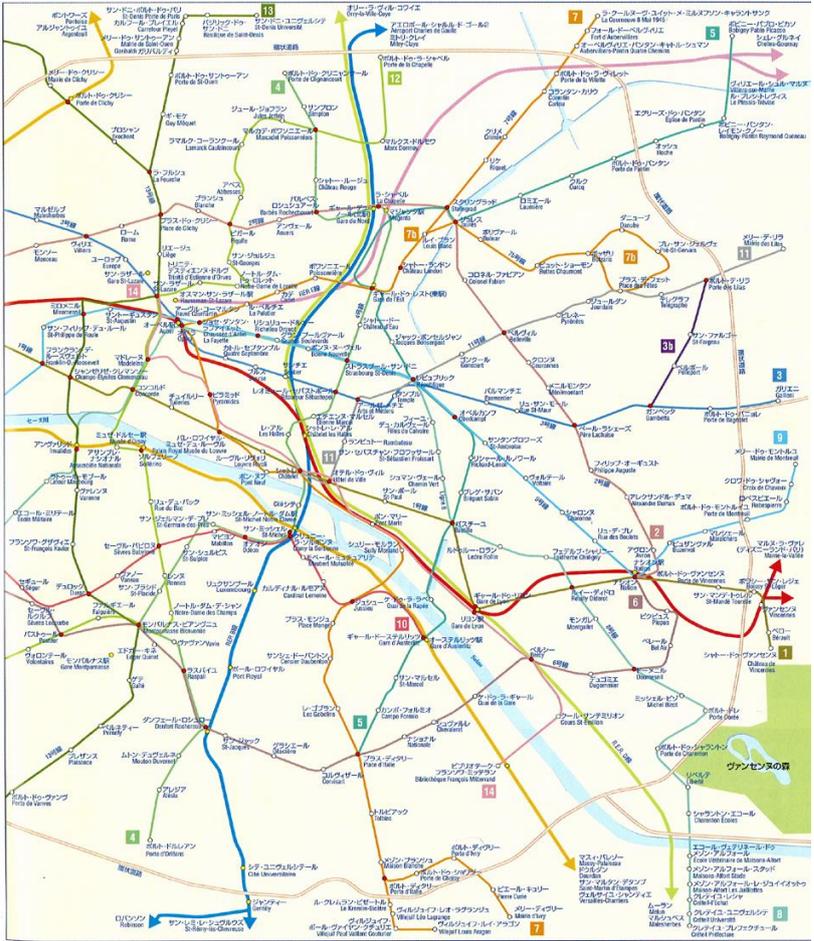
LE CORBUSIER (1929-31)

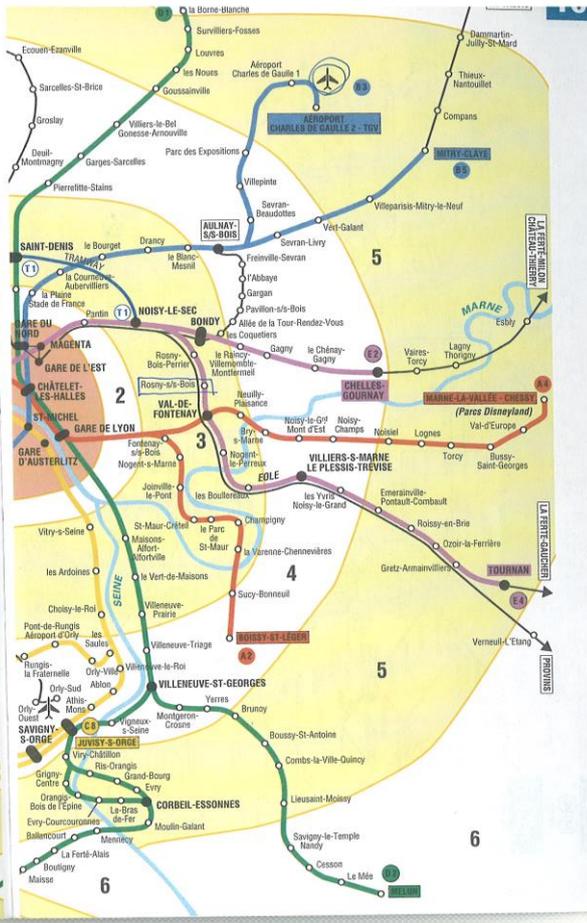
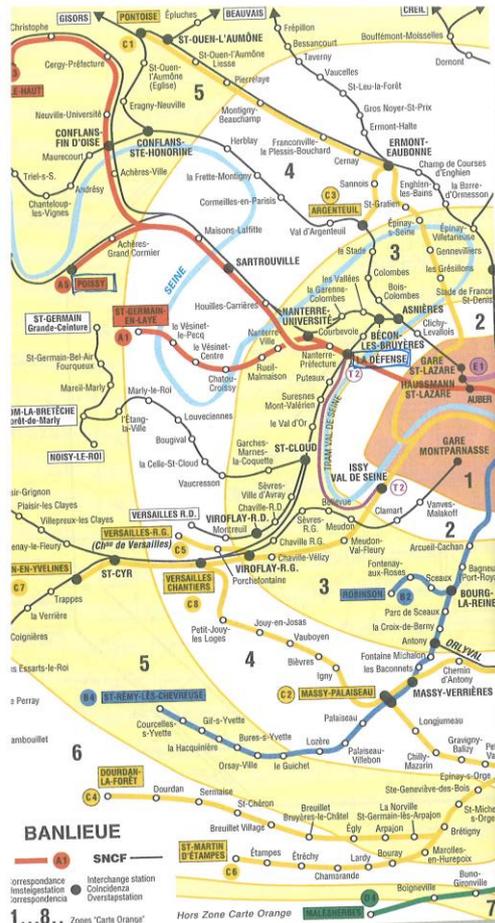
## モン・サン・ミッシェル修道院



現在ベネディクト派の修道院が使用している。宗教施設にして軍事施設である中世建築。大天使ミカエル出現の伝承のある島の岩上の建築は、初期ロマネスクの身廊・神廊と後期ゴシックの内陣を持つ教会堂、ゴシック様式の傑作「ラ・メルヴェイユ(驚異)」と呼ばれる修道院施設等からなり、各時代に増改築を繰り返した世界遺産の建築。JEAN NOUVEL、EMMANUEL CATANI、(1023-1186)・1446-1523・1204-38)







緊急連絡先 0長押し-81-80-1152-0372 幹事携帯  
緊急連絡先 06-89841503 ガリバー トラベル パリ 携帯  
緊急連絡先 53947620 ガリバー トラベル パリ オフィス  
ホ テ ル 「B. W. BERCY RIVE GAUCHE」  
住所 82-84 rue regnault 75013 PARIS  
地下鉄 7 番線ポルトディブリー (PORTE DIVRY)  
から徒歩 2 分  
tel 33 1 4585-7070  
fax 33 1 4585-5834 (33 は国番号)